

旧東川駅跡再開発プロジェクト基本構想策定等懇談会第3回
会 議 録（公表用）

日 時	令和7年8月20日（水）13時30分～16時30分
場 所	東川町農村環境改善センター ホール
出席者	懇談会委員29名（本日出席27名。／町役場 菊地町長以下17名／アドバイザー1名 / 設計協力会社①5名／協力会社2名／傍聴 有識者1名
配付資料	【資料1】第3回グループワークの進め方、【資料2】第2回グループワークまとめ、【様式1】事前ワークシート、【様式2】基本理念確認シート、【資料3】タウンミーティング結果の取りまとめ、【資料4】今後のスケジュールについて

1. 開会・あいさつ

- 町長：これまでの懇談会・タウンミーティングで多くの意見をいただき、関心の高さを実感している。より丁寧に検討を行うため、懇談会のスケジュールについて、年度をまたいで延長したい。懇談会の目的は基本構想の策定であり、その後、基本計画・詳細設計へと進める。

2. タウンミーティング結果の説明（要旨）

タウンミーティングは全8回・合計208名の参加があり、100以上の意見・質問が寄せられた。主な論点として、開発の方向性（観光偏重への懸念）、事業のねらい、集客の要否、教育との連携、電車の活用、展示機能（織田コレクション等）、商業機能（道の駅との差別化）、運営体制、町民との対話、建築家との関わり、財源、駐車場などがあり、それぞれに対する町の考え方を併せて整理した。

- アドバイザー（総括）：これらの意見はこれからのまちづくりにとっての宝である。建物を造ることではなく、未来をどう創り、地域の価値を持続的に高めていくかが本プロジェクトへの期待である。

3. グループワーク 基本理念の検証（発表要旨）

- 3班（観光・福祉・建設）：道の駅の物販・多目的スペースやイトインの有無が論点となった。駅跡と道の駅の機能分担、既存業者とのバランス、広域での人の流れの創出が重要である。
- 2班（農協・商工会）：農業・商工・観光・行政の連携により、地域商社等の新組織で特産品販売・商品開発・出店管理を担うことが考えられる。目的は東川の産業の持続可能性である。
- 5班（教育）：子どもが主体的に選択できる環境と、持続可能な支援体制が必要である。

既存の資源を活用し、行きたくなる場を考えたい。

- 1 班（地域住民）：役員の担い手・交通・買い物の課題があり、地域に居ながら買い物や交流ができる場が求められる。織田コレクションの価値を理解する場がまず必要である（駅跡に作ってほしいという趣旨ではない）。
- 4 班（木工会・森林組合）：家庭で旭川家具が使われ、森林が大切にされる状態が理想である。織田コレクションを活用して家具文化を高め、後継者育成にもつなげたい。
- アドバイザー（総括）：個々に問題を抱えて課題に対応していた状態から、共通の目的意識を持ち、共にあるべき姿を考えることで、見えていなかったものが見えてきたのではないかと。5～10 年後、本プロジェクトによって人々の行動に具体的な変化が生まれることを見据えると、基本構想策定の難易度は高い（責任が重い）。ただし、達成できれば公共性と個の自己実現のバランスがとれたものができると思う。

4. 今後の進め方・質疑（要旨）

事務局より、基本構想の策定期間を延長すること、懇談会の日程・委嘱期間の延長について説明した。

- 委員：懇談会の検討経過や資料を、関心のある方のためにインターネット等で公開してはどうか。途中経過を町民に説明し意見をもらう機会も設けてはどうか。
 - 町長・事務局：ホームページでの発信方法を検討する。第 4 回までに基本理念・方針・導入機能を整理し、そのタイミングで住民説明会（10 月）を開催する予定である。タウンミーティングの内容は広報にも掲載する。
- 委員：織田コレクションの鑑定額を町の PR に活用してはどうか。
 - 町長：公有化の際に鑑定評価は実施済みである。織田コレクションは 1 点 1 点というより全体で一つの価値を持つものであり、金額以上の存在価値が伝わるよう情報発信を工夫したい。

以上